

平成20年度 郷土資料館特別展

「ジョセフ・ヒコ」

播磨町で生まれた「新聞の父」ジョセフ・ヒコが
1858年にアメリカの市民権を得てから、今年で150周年となります。

⑥ 能福寺の説明文

神戸市兵庫区にある能福寺に、この寺のいわれを書いた英文の碑があります。
ジョセフ・ヒコが書いた英文の碑についてご紹介します。



▲能福寺の英文の碑

日本文化を多くの人に紹介したい気持ちが込められています

【ヒコ・クイズ】 ヒコ・クイズ なぜ、英文の碑をつくったのでしょうか。

- ① 能福寺への外国人観光客が多くなったから
- ② 能福寺が、ある国の領事館として使われることになったから
- ③ 能福寺にジョセフ・ヒコがたまたま泊まったから

ジョセフ・ヒコは、1875年から1888年まで、神戸にいました。神戸は1868年1月1日（慶応3年12月7日）の開港にもなっており、今のフラワード以西、鯉川筋以東、大丸以南が居留地となりました。ところが開港までに間に合わないため、東の生田川と西の宇治川との間の山手と海岸に雑居地をつくりまします。この内、山手が「北野の異人館」の元になります。

このようにして入ってきた新しい文化は、最初は外国人だけのものでしたが、自然に日本人も用いるようになり、広がっていきます。ジョセフ・ヒコが神戸にいた間に限っても、コーヒー店、洋菓子店が初めてできていきます。

同時期に、観光で周辺の寺院なども外国人が訪れるようになります。この神戸市兵庫区にある能福寺も、1891年に兵庫大仏ができ、また、平家ゆかりの地であることから多くの人が訪れてきました。そのような外国人観光客が多くなったために、第19世住職が、ジョセフ・ヒコに能福寺の由来を英文で書くことを依頼し、碑は1892年に完成します。ジョセフ・ヒコが東京に住んでいるからです。

英文依頼がいつの時になされたかは不明ですが、ジョセフ・ヒコが神戸に残した業績として大切にしたいものです。

なお、この寺院には、ジョセフ・ヒコが神戸で最初にお世話になった北風正造の碑もあります。

（郷土資料館 田井恭一）



● クイズの答 ●

- ① 能福寺への外国人観光客が多くなったから

【問い合わせ】郷土資料館 ☎ 079 (435) 5000

絵ものがたり『ジョセフ・ヒコと洋式帆船の男たち』（播磨町ふるさとの先覚者顕彰会）発売中2,500円

【訂正】⑤神戸で行ったことの中で、「1887年に東京に移り」としましたが、正しくは「1888年」でした。お詫びして訂正します



町の人口 8月1日現在 (住民基本台帳人口+外国籍人口)

34,305人 (-25人)	男...16,818人 (-23人)	世帯数...13,350 (-8)
	女...17,487人 (-2人)	